

ふるさと景観再生の手引き

～岩手県沿岸地域復興に向けた景観形成の基本的考え方～

復興と共に良好な景観を形成していくために

3. 11 東日本大震災津波により、豊かな自然や歴史的風土、産業と調和して築かれていた沿岸部の市街地や集落の良好な景観の多くが一瞬にして破壊

復興においては、先人から受け継いだ自然や歴史的風土に、語り継がれるべき歴史を書き加えながら、子孫へと引き継ぐ良好な景観形成を併せて進めることが必要

景観に配慮した“まちづくり”により、被災された方々が「ふるさとに住み続けたい」と考え、地域に暮らす人々が身の周りの景観を美しく魅力あるものとして感じ、復興に携わった人々も美しく親しみのある「まち」と実感できるような社会の実現

《 目指す姿 》

良好な景観形成による
誇りと愛着を持てる
“ふるさと”の再生

I 景観形成の手がかり		失われた景観を取り戻す、あるいは新たな景観を創造する際に共通する手がかり	II 地域毎の配慮事項		場所や地形に応じた景観形成の配慮事項
①自然を読む	地形	<input type="checkbox"/> 遠くの山並み、身近な里山までを一つの風景として知る <input type="checkbox"/> 漁師が目印にしている岬など場所の意味を知る	①海岸部	海岸線を守る	<input type="checkbox"/> 景観を乱すような地形の改変、樹木の伐採などを控える <input type="checkbox"/> 人工物は周辺の自然景観と調和を図る
	眺望	<input type="checkbox"/> 眺望点から計画地がどのように見えるかを知る <input type="checkbox"/> 海が見えるか確認する		防潮林を再生する	<input type="checkbox"/> 緑を提供することができる防潮林により、人工的な工作物とは違った景観を形成する
	気象条件・地域風景	<input type="checkbox"/> 日当たりの良い南斜面がどこか把握する <input type="checkbox"/> 風を避けるための屋敷林、石垣の工夫を知る		産業空間の賑わいを演出	<input type="checkbox"/> 港と市街地との連続性を確保する <input type="checkbox"/> 海を眺望できる視点を確保する
②歴史を読む	まちの骨格	<input type="checkbox"/> 江戸時代から残る街道を知る <input type="checkbox"/> かつての目抜き通りを把握する <input type="checkbox"/> 海や山へと視線が抜ける通りを把握する	②市街地	コンパクトな市街地を形成する	<input type="checkbox"/> 海岸部の埋め立てや市街地の拡大が起こる以前のまちの姿を参考にする
	場所の記憶	<input type="checkbox"/> かつての繁栄した時代のつながりを知る <input type="checkbox"/> かつての街を象徴する建物を知る <input type="checkbox"/> 語り継ぐべき歴史を知る <input type="checkbox"/> 住んでいた人にとっての価値のある場所を知る		まちの骨格を継承する	<input type="checkbox"/> かつての目抜き通りを大切に <input type="checkbox"/> 江戸時代からの街道を大切に
	伝統行事	<input type="checkbox"/> 浸水域の外側に立つ神社仏閣を把握する <input type="checkbox"/> 御神輿・山車のルートやお祭り会場を把握する <input type="checkbox"/> 神楽など伝統行事と集落間のつながりを知る		中心市街地を再生する	<input type="checkbox"/> 駅前広場や横丁などの人が集える空間を確保する <input type="checkbox"/> 水辺や街路樹を設ける <input type="checkbox"/> 電柱類の地中化又は裏配線などを検討する
③将来の計画を読む	復興計画、総合計画等	<input type="checkbox"/> 復興事業計画における計画地の位置付けを知る <input type="checkbox"/> 総合計画、都市計画、景観計画等を調べる	③集落部	地形に寄り添う	<input type="checkbox"/> 斜面地では自然地形を利用し大規模のり面を発生させない
④地域の文脈に従う	自然に寄り添う	<input type="checkbox"/> 自然の大きな改変を避ける <input type="checkbox"/> 地形に沿った自然な配置		地域のつながりを守る	<input type="checkbox"/> 建物の色彩・デザインと垣・柵等の一体性を持つよう工夫する <input type="checkbox"/> 景観についてまとまりのある集落地を形成する
	歴史を継承する	<input type="checkbox"/> 残った資源をできるだけ保存する <input type="checkbox"/> 皆の大事な記憶の上に新たなシンボルを創造する <input type="checkbox"/> 以前のまち、道路の形や特定の場所を大事に扱う		伝統文化に学ぶ	<input type="checkbox"/> 祭事が行われる場所を大切に <input type="checkbox"/> 集落間のつながりを考慮する
	生活を継承する	<input type="checkbox"/> これまでの生活の様子や公共施設の位置に留意して、生活の継承を考慮する	④高台の新住宅地	地域性を見出す <input type="checkbox"/> 海が見える場所を設ける <input type="checkbox"/> 高台の緑豊かな環境にあわせた植栽を行う “めりはり”をつける <input type="checkbox"/> 街路に曲線を用いたり、緑道の設置などにより街区構成に“めりはり”を持たせる 日常的に親しまれる施設をつくる <input type="checkbox"/> 施設を作る際には、安全と日常の快適性を両立させて、景観への配慮も行う	
⑤まとまりを意識する	コンパクトな市街地形成	<input type="checkbox"/> 人口減少に合わせた“コンパクトなまち”を検討する <input type="checkbox"/> 離れた場所に移転する場合には、視覚的なつながりを保つ	⑥総合的に計画する	復興の初期段階から	<input type="checkbox"/> 住民参加を極力取り入れて検討する <input type="checkbox"/> 全体のまとまりを意識した復興整備計画の検討を行う <input type="checkbox"/> 大きな法面を発生させない地形に沿った街区設計や電線類の裏配線などの配慮を行う
	地域の基調要素を見つける	<input type="checkbox"/> 地場の素材を用いる <input type="checkbox"/> 地域性を感じさせる伝統技術を活かす		基盤整備と建築の一体的検討	<input type="checkbox"/> 緩やかな曲線を描く道路を計画する <input type="checkbox"/> 人々が集える場所を計画する
	近隣との調和	<input type="checkbox"/> 建物の向き・道路との関係・色調を調和させる <input type="checkbox"/> 主要道路沿いの統一や協調を図る		地域固有の特性を尊重した景観の演出	<input type="checkbox"/> 大規模な法面全般への擬石の使用、規模や形状が過剰である屋外広告物の設置などは避ける <input type="checkbox"/> 地域を代表する特性を活かした景観演出
	防災文化の定着と継承を進める	<input type="checkbox"/> 安全な避難路を設けるなど、安全安心の社会基盤施設を構築する <input type="checkbox"/> 災害の記憶を伝える景観を検討する		防災文化の定着と継承を進める	<input type="checkbox"/> 安全な避難路を設けるなど、安全安心の社会基盤施設を構築する <input type="checkbox"/> 災害の記憶を伝える景観を検討する

※手がかりや配慮事項の参考となる主な事例写真を裏面に掲載

ふるさと景観再生の手引き

I 景観形成の手がかりの主な事例

<p>1 自然を読む 1) 地形を読む 美しい断崖 (田野畑村北山崎)</p> 	<p>2) 眺望を読む 山頂からの眺望 (陸前高田市箱根山)</p> 	<p>3) 気象条件・地域風景を読む 山斜面からの風を防ぐ石垣 (大船渡市泊)</p> 	<p>3 将来の計画を読む 1) 復興計画を読む</p> 	<p>5 まとまりを意識する 2) 地域に根ざした基調となる要素を見つける 地場産による石垣 (大船渡市吉浜)</p> 
<p>2 歴史を読む 1) まちの骨格を読む かつての街道 (宮古市鎌ヶ崎)</p> 	<p>2) 場所の記憶を読む 県指定有形文化財の吉田家住宅 (陸前高田市)</p> 	<p>3) 伝統行事を読む けんか七夕の山車 (陸前高田市)</p> 	<p>4 地域の文脈に従う 1) 自然に寄り添う 斜面に沿った集落 (釜石市唐丹小白浜)</p> 	<p>6 総合的に計画する 1) 復興の初期段階から景観に配慮する 初期段階から景観に配慮された住宅地 (陸前高田市鳴石団地)</p>  <p>4) 防災文化の定着と継承を進める 津波からの復興の願いが込められた桜の植樹 (釜石市唐丹町本郷)</p> 

II 地域毎の配慮事項の主な事例

<p>1 海岸部 2) 防潮林を再生する アカマツ林が美しい海岸線 (釜石市根浜)</p> 	<p>3) 産業空間の賑わいを演出する 賑わう港 (普代村太田名部)</p> 	<p>4) 眺めの良い場所をつくる 海へ通じる“こみち” (釜石市大石)</p> 
<p>2 市街地 2) まちの骨格を継承する 町の中心にある愛宕大鳥居 (野田村)</p> 	<p>3 集落地 1) 地形に寄り添う 斜面を活用した宅地 (大船渡市小石浜)</p> 	<p>4 高台の新住宅地 1) 地域性を見出す 地域材をふんだんに使用 (陸前高田市鳴石団地)</p>  <p>3) 日常的に親しまれる施設をつくる 日常利用されている高台の公園 (大船渡市明神前)</p> 